

# 令和6年度 利用者懇談会 於：東寺方図書館

日 時：令和6年8月17日（土） 午後2時から午後4時まで

場 所：東寺方地区市民ホール 第一会議室

出席者：利用者：9人

図書館職員：6人

図書館長、企画運営担当 1 主査、関戸図書館長兼東寺方図書館長、東寺方図書館職員、企画運営担当 1 職員（2人）

---

1. 職員及び参加者自己紹介 (10分)
2. 図書館の利用実績及び計画に関する説明 (30分)
3. 意見交換 (80分)

## 内容（要旨）

- (1) 令和5年度多摩市立図書館利用状況
- (2) (仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画について
- (3) 意見交換
- (4) 閉会

### (1) 令和5年度多摩市立図書館利用状況

図書館：配布している「多摩市の図書館 概要版」に沿って図書館の利用状況を説明する。

#### ・オンラインデータベース

中央図書館の開館に合わせて令和5年度から増やし、13タイトルある。過去の新聞や経済情報を中心に全館で閲覧できるコンテンツも用意している。

#### ・登録者数について

令和6年3月31日時点で53,833人の方が登録しており、令和5年度の新規登録が16,000人ほどであった。人口に対する登録者の割合は、27.6%であり、前年度と比較して、増加した。

#### ・貸出・予約の利用実績について

貸出者数は80万人、貸出点数は160万点程度であり、前年度と比較して増加している。一人当たりで換算すると、10.9点で、同規模の自治体では全国で3位である。予約についても49万点と前年度と比較して増加している。同規模の自治体では全国2位。

#### ・レファレンスについて

受付件数は101,882件であった。中央図書館の開館に伴い、件数は増えているが、本の配架場所や在庫状況に関する質問が大半を占めており、時間をかけて調査するレファレンスは現状少ない。

#### ・イベントについて

令和5年度は多くのイベントを実施した。本館の閉館イベントは4月から5月にかけて、図書館主催イベント3イベント、市民協働でのイベント6イベントを実施。中央図書館の開館イベントは、図書館主催イベントが10イベント、その他市民協働や地域の大学との連携、周辺企業との連携イベントを25イベント実施した。

(2) (仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画について

図書館：続いて、(仮称)「第二次多摩市読書活動振興計画」(以下次期計画という)について説明する。令和7年度に策定する予定として、現在、次期計画の策定を進めているところである。

【(仮称)「第二次多摩市読書活動振興計画」の策定について】

・計画策定の経緯

多摩市読書活動振興計画を更新予定。図書館のもう一つの計画である、「多摩市子どもの読書活動推進計画」と一本化する。

・次期計画の位置づけについて

基本方針「市民の「知る」を支援する」の実現を目指し、5つの運営方針を掲げている。

運営方針については「多摩市子どもの読書活動振興計画」との整合性にあたり、部分的に見直しを検討している。

基本方針については新しい言い回しや時代に捉えた表現に変更することはあるが、基本的には継続する予定である。

・計画のスケジュールについて

令和7年度9月頃に決定する予定である。

・策定体制について

市役所の課長級の策定委員会、学識経験者や関係団体、一般公募の市民等から構成する有識者会議で検討。その他、学びあい育ちあい推進審議会や第三次子ども読書活動推進市民ボランティア連絡会などに意見照会を行う。

・市民参画について

一般の方を対象にしたアンケートを実施。合わせて、児童、生徒、保護者、ボランティア団体、関係機関等子どもや子どもに関わる方々を対象別に分け、アンケートを実施し、集計を行っているところである。

利用者懇談会(中央図書館、東寺方図書館)を実施。その他、障がい者サービス利用者との懇談会を実施予定。その他、市民説明会、パブリックコメントなど実施していく予定。

【(仮称)第二次多摩市読書活動振興計画にかかるアンケートの集計結果について】

○一般向け(中学生以上)のアンケート結果

紙のアンケートを1,300枚配布し、379枚回収。WEBでの回答が279件であり、合計で679件の回答があった。

回答された方の年代は、60代、70代、80代の方々が多く、全体の54%を占めた。

最もよく行く図書館は、中央図書館、永山図書館、関戸図書館と続いた。理由として、家や職場が近いことが一番多かった。

図書館の非来館サービスの認知度では、図書館のホームページの認知度が高い結果となった。近年始めた「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」や「多摩市デジタルアーカイブ」の認知度が低かった。

図書館に力を入れて取り組んでほしいことでは、蔵書の充実を望む声が一番多かった。以下、子どもへの読書支援、本の並び方の変更・魅力化、高齢者向けサービスと続いた。

自由記入欄でも、蔵書について充実を希望する意見が最も多かった。その次にサービスの向上やスペースの利用に関する声となった。スペースの利用について具体的には、閲覧席の改善や座席数を増やしてほしいといったような内容が多かった。

○子どもへのアンケート結果

小学校2年生、小学校5年生、中学校2年生、高校2年生、大学生を対象として、市内の小中中学校、高校3校、近隣の大学を含めた大学4校でアンケートを実施。

(傾向)

- ・高校生までは学年が上がるごとに好き・読書をする回答が減少し、大学生で微増。
- ・学年が上がるごとに1~3冊の割合が高くなり、読む冊数は減る傾向にある。
- ・家に本があり本を読める環境はあるが、読む冊数が少なことがアンケートから読み取れる。
- ・学年が上がるごとに、図書館に行かなくなると回答した割合が増えている。
- ・電子機器を使用して読書をするとの回答は少なく、電子図書館の認知度も低かった。

### (3) 意見交換（図書館サービスについて）

図書館：続いて意見交換を行う。

利用者：中央図書館開館1周年記念イベントについて、チラシにある協力者の表記が「協力」や「主催」とイベントによって異なっている。またチラシと図書館ホームページの表記が統一されていない。どちらが正しいかわからないため表記を統一してほしい。また協力者の表記に個人名を記載しているイベントがある。個人名を載せることで別の事業の宣伝を目的としているのではないかと疑ってしまう。

図書館：チラシと図書館ホームページとの整合性については後ほど確認し、表現を統一するよう修正する。協力者の表記については、市民協働ということで、主催される方の意向を尊重したためである。ただし、市民から見て違和感があるというご指摘をいただき、今後は市民協働者と相談しながら統一感をもって協力者の表記を検討していく。

利用者：・英語多読について

中央図書館では小学生や中高生に向けた多読コーナーを設けており、英語多読に力を入れていると感じるが、東寺方図書館のような地域館には多読に関する本がほとんど置かれていない。中高生であれば予約して取り寄せることができるが、小学生は手に取れるようにしないと利用できないため、ぜひ地域館にも多読に関する本を置いてほしい。

・本の並び方について

東寺方図書館の本の並びについて、国語辞書のような子ども向けの辞書が書架の高いところに置いてあり、小学生では手が届かない恐れがある。低い位置に置いた方が良いと思うし、可能ならテーブルに置くなど小学生が身近に手に取れるような配置にしてほしい。

図書館：多読については複本がないため早急の対応は難しいが、今回ご意見を伺い、検討させていただく。辞書の設置場所について、多摩市立図書館ではNDCに基づいて本を並べており、その結果、高い位置に辞書が置かれている。場所を移すことの懸念点として、図書館検索機から出るレシートには番号が表記されており、表記されている場所と実際に置いてある場所が異なると探せなくなる。本を移動させた時ほどこの棚に移動したかわか

るように表示をしているが、それが多発すると混乱を招く可能性もあるため、今回ご意見をいただき内部で検討したい。現在は小学生でも届くよう、ステップを設置している。

利用者：昨年と今年にほんともスペシャルおはなし会を実施した。おはなし会に必要な道具が中央図書館にあり、昨年までは直接中央図書館に行かないと借りることができなかったが、今年からは地域館で依頼できるようになっていた。中央図書館との連携ができていて、とても嬉しかった。また私は職場で子供たちに読み聞かせをすることがある。古くから人気の本の読み聞かせをよく行うが、このままだと本を読まない子どもたちが増えてしまうのではないかと不安を感じている。

利用者：東寺方図書館について伺いたい。公共施設に関わる意見交換会に参加した際、東寺方と豊ヶ丘についてはコミュニティセンターにするという案が出された。図書館についての言及はなかったためお伺いしたい。以前、7館ある図書館のうち、4館を減らして、3館にするという案が提案された。先ほど説明があったが、同じ規模の自治体の中でも多摩市は多くの市民が図書館を利用している。そのような利用状況の中でなぜ7館を3館に減らすのか疑問である。多摩市は図書館を減らす動きをしていることがとても心配である。その証拠に多摩市が隔月で行っている市政調査では、よく利用している公共施設の項目に図書館が削除されていた。認知度調査についてもパルテノン多摩の次に図書館の認知度が高かったが、今年の調査からは図書館の項目が削除されていた。多摩市民の図書館利用は全国的に見ても多く、アンケートからもこれだけ強い要望があるから、市には図書館を存続させる方向で提案してほしい。現時点では、東寺方図書館も豊ヶ丘図書館も今後どうなるのかについては白紙のようで、先日の意見交換会でも言及されなかった。冒頭説明があった（仮称）第二次読書活動振興計画の中で、東寺方図書館はどのような位置づけになるのかお聞きしたい。

図書館：まず市の方針として、地域館を減らすことはせず、今後も7館体制で運営していく。先日の意見交換会では、児童館や老人福祉館に変更点等があるため、ご説明したところであり、図書館については地域館として存続することは変わらないことから説明はしなかった。施設改修については地域の皆さんの意見を聞きながら検討していくところである。次期計画では、地域館として必要なサービスや、駅前拠点館として必要な機能、中央図書館の運営方法などについて記載し、機能的な部分であるソフト面を中心に記載していく予定であり、そこに合わせてハード面について検討していきたい。

利用者：アンケートの結果からみても、地域館の存在意義はとても大きい。市の公共施設の中でも図書館は別格だと思っている。ぜひ自信をもって運営してほしい。

利用者：館長からソフトウェア、ハードウェアについて言及があったが、もちろんソフト面は大

切だが、東寺方図書館というハード面の部分もきちんと考えていただきたい。

図書館：次期計画についてはソフト面が中心となると思うが、皆様と対話しながら意見交換を行い、ハード面についても併せて考えていきたい。

利用者：東寺方図書館長にお聞きしたい。多摩市では駅前拠点館と地域館の館長を兼務するという、全国的にはあまり例のない運営だと思うが、館長職として、職員とのコミュニケーションや普段の業務でどんな悩みを抱えているのか教えていただきたい。また兼務する図書館の特色についてお聞きしたい。多摩市の職員数が減少傾向にあることなど、様々な事情があると思うが、館長の兼務というのはとても大変だと思う。利用者と図書館と一緒に考えていくことも懇談会を行う上で大事な意味であるから、ぜひお伺いしたい。

図書館：まず関戸図書館は駅前拠点館ということで、規模が大きく、日野市や府中市にお住まいの方など、広い範囲でご利用いただいている。また IC タグを活用したセルフ貸出機やセルフ返却機を導入し、蔵書数も地域館に比べて多いことから利用者自身で目的の本を探し、貸出できる部分が関戸図書館の特徴だと思う。夏休みには多くの親子連れが来館され、児童コーナーでゆっくり過ごしながらか、最後にたくさん本を借り、喜んで帰宅される姿も見られる。時には職員体制がなかなか厳しい状況もあるが、職員がそれぞれの判断で動いている印象である。

東寺方図書館については地域の常連の方が利用されているところが特色であると思う。下の階には児童館があり、過去には図書館内で鬼ごっこを始めてしまうこともあったが、現在は児童館の職員とも連携し、注意をしながら運営しているところである。またおはなし会で笑い声が館内に響いた際、目くじらを立てる利用者もおらず、そういった部分も東寺方図書館の特色であると感じている。

館長の兼務については、自分の頭で考えることだけでは不十分だと感じており、直に見る、直に話すといった部分を意識して業務にあたっている。また自分の席を置いている東寺方図書館や聖ヶ丘図書館についてはタイミングが合わず、直に話せない場合は、電話やメール等を頻繁に行い、なるべくコミュニケーション密にとるよう心掛けている。

利用者：ちなみに今年度は蔵書点検を実施する予定はあるか。

図書館：6月に実施した図書館システム機器入替にて、すでに特別休館を行ったことから今年度は実施しない。

利用者：職員と積極的にコミュニケーションを取ろうとしていることは伝わったが、やはり館長と直に話せないのは大きいことだと感じており、地域との結びつきが薄くなってきているというようにも感じている。例えばひじり館で祭りを実施する際、図書館が中心とな

って児童館や永山高校などに声をかけ、おはなし会を実施していたが、そういったことができなくなっており、図書館との関わりが薄れている印象がある。障がい者サービスという視点で見ても、今後は館長や経験豊富な正職員が地域館にこそ必要であると思う。

利用者：普段、館長がいないことについて、東寺方図書館職員のお話を聞きたい。

図書館：最初は館長がいないことにドキドキしていたが、実際に働いてみて、館長がいなくて非常に困った点があるかというとは意外とない。強いて言えば利用者同士がトラブルを起こし、その場で止めなければいけないならない状態が一番困るが、館長がいるからと言って収まることでもない。そういった場面に出会ったときにどう対処するか、常に考えながら働いている。

利用者：正職員がいない中での運営というのはとても大変だと思う。直に会って話をすることで信頼感やアイデアが生まれ、図書館がより良くなっていくと思う。職員数の問題等あると思うが、正職員が一人もいない状況を解消できるよう検討していただきたい。また「市民の「知る」を支援する」という点で多摩市全体の体制をどう作っていくか検討してほしい。特にレファレンスサービスやデータベースの基本的な使い方講座など、図書館の便利な部分を広く周知してほしい。

利用者：これからの東寺方図書館について考えたい。私は今以上に敷居を下げてもよく使えないかと考えている。例えばクールシェアで図書館に涼みに来るよう促すなど、本を読むという目的を考えずに図書館を利用する人が増えても良いのではないかと思う。また以前、児童館に来ている親御さんが借りた本を子どもが破ってしまうため、図書館を利用することができないと話していた。例えば自宅にある読み終わった本を図書館において置き、なくしたり破いたりしても問題がないという仕組みがあっても良いのではないかと思う。そういった新しい図書館の在り方が見えてくるとより良いものになると感じている。

利用者：本のまちプロジェクトについて、単年度の事業として実施するということが今後はもう実施しないのか。また本のまちというフレーズがあるが、本を愛するというフレーズも入れてみてはどうか。本をたくさん読むことや子どもに読書の機会を与えるという意味でとても良いと思う。

図書館：本のまちプロジェクトについては、まず一年を通して実施するとして進めている。昨年度は中央図書館で丸善と連携したイベントを実施したが、令和6年度は永山図書館や関戸図書館も巻き込み、市内全域で実施している。今年度の結果を見て、継続していくか判断したい。

利用者：アンケートの3番目に記載されている商用データベースとは具体的に何か。

図書館：図書館で契約している有料のデータベースで、東寺方図書館だと朝日新聞や全国の地方新聞を閲覧することができる。契約の関係上、他の図書館で利用している場合、その間は閲覧できないなど制限がある。

利用者：図書館協議会について、傍聴した人がコメントを書き、図書館協議会に渡すシステムを作してほしい。

利用者：・レファレンスについて

多摩市では様々なサービスを広げていくと提案があったが、それよりもまずはレファレンス等の基本的なサービスを固めていく必要があると感じている。近隣の図書館と比べて、多摩市のレファレンスはまだまだレベルが低い。パスファインダーについても小学生レベルだと感じている。イベントに熱心に取り組む以前にまずはレファレンス能力を向上させることが何より大切だと思う。気軽にレファレンスを受けられる体制づくりをしてほしい。

・開架にある本について

中央図書館に資源が集まりすぎている。駅前拠点館ですら新刊が少ない。文京区や新宿区はベーシックな本を収集できており、開架にもしっかり並んでいる。多摩市の場合、古い本は基本的に閉架へ行くため、棚を見ても魅力を感じない。ベーシックな本をもっと置いてほしい。

利用者：計画に記載されている図書館コンピューターシステムの見直し・活用について、6月に実施した図書館システムの機器入替や図書館システム全般で今後変更しようとしていることについて紹介できる範囲でお伺いしたい。

図書館：図書館システム全体でいうと、中央図書館・関戸図書館・永山図書館にICタグを導入した点は大きく変わった部分であると認識している。6月に実施した図書館システムの機器入替については、システム自体は大きく変わっていないが、一部新機能が追加された。図書館ホームページにログインした際、利用者カードのバーコードが表示され、カードを忘れてしまった場合でも貸出ができるようになった。またGoogle翻訳を図書館ホームページに導入した。中央図書館、関戸図書館については活動室の支払い時に電子決済ができるようになる予定である。

利用者：ぜひ情報発信をしていただきたいと思います。期待している。

図書館：先ほど話題にあったレファレンスについて、言い訳っぽくなってしまいが、レファレン

スを要求する利用者の数が少ないことも実際の問題としてある。少し時間をもらって調査すれば回答できそうな内容も、遠慮されるため、結果レファレンスとして受付できないことがある。そういう意味ではレファレンスを使ってもらう方にも慣れていただく必要があると思う。

利用者：調布の図書館では市民の話をじっくり聞き、正確で詳細な情報提供をしてくれる。お互いの関係をしっかり作っていく上ではやはり、レファレンスの実力を今以上につけることやレファレンスしやすい雰囲気を作っていくことが大切だと思う。

利用者：私はわからないことはカウンターの職員に質問するようにしている。その際、かなり詳細な情報を提供していただき大変助かっている。とにかく質問することでお互いを高めることができると思うから、引き続きわからないことは質問していきたい。

図書館：図書館としても声をかけやすい雰囲気づくりをしていく必要があると感じた。心がけていく。今回も様々なご意見をいただくことができた。これからも引き続き図書館を利用していきたい。

(閉会)